2023 年 12 月 28 日発行
第２１号
編集：歴らぼ編集部

歴らぼ通信

目次　01　歴史文化学科の活動ほか　02　歴らぼ活動ほか

01　歴史文化学科の活動ほか

中辻ゼミ巡見：北庄棚田での田植え

中辻ゼミでは、2023 年 5 月 28 日に岡山県久米郡久米南町北庄の棚田でフィールドワークを行いました。引率は今年度代理担当の神田先生です。メインイベントの田植え体験の他、炊き出しの協力や北庄棚田についての説明を受けるなど、ここでしか体験できないことばかりでとても新鮮な 1 日となりました。田植え体験から、お米を当たり前に食べられる有り難さを心から感じることができ、食育という面でも本当に行ってよかったと思いました。北庄の棚田では、5 月の田植え体験の他、季節毎にお米と自然に触れ合えるイベントを企画しているので、気になる方は是非参加してみて下さい！　（3 回生・佐藤葵生）

鳴海ゼミ巡見：エーデルワイスミュージアムと立花商店街

2023 年 8 月 1 日、鳴海ゼミではエーデルワイスミュージアムと立花商店街へ行きました。この博物館は、製菓会社のエーデルワイスの収集資料を展示するもので、チョコレートやワッフル型などの製菓器具ほか、美しい銀食器や個性豊かな菓子缶などが展示されていました。どの道具も歴史を感じる繊細な作りで、とても面白かったです。また、工場も併設されていて、ケーキや焼き菓子作りの様子も見学でき、普段見れない洋菓子作りの過程が見れました。一方、昭和レトロな雰囲気の残る立花商店街は、通行人も多く活気のある場所で、昔懐かしい商店街の雰囲気を見学しました。猛暑のなかの巡見となりましたが、有意義な時間となりました。　（3 回生：鈴木結衣）

歴らぼ通信の刊行は、これで 21 号となりました。歴らぼ通信では、歴史文化学科における様々な活動を紹介しています。通信に記載される記事の多くは、ホームページ「歴らぼの WEB サイト」（https://www.konan-u.ac.jp/hp/rekibun/）でも紹介していますので、そちらもご覧下さい。なお、各記事を書いた学生の年数は記事の時期に合わせています。

アジア史史料研究Ⅲ（担当：中町先生）のゲスト紹介

2023 年 7 月 7 日、アジア史史料研究Ⅲの講義にシリア出身のナーイフ兼寛さんがお越し下さり、貴重な話を聞かせて頂きました。前半ではナーイフさんの母国であるシリアについてや日常で役に立つアラビア語のこと、後半ではナーイフさんが日本に来日してからの経験をお聞きしました。ナーイフさんの実際の経験からくる在日外国人が行う詐欺についての話は非常に説得力があり個人的に興味深い内容でした。日本語が上手で話のテンポもよく、かつクイズや音読等を交えて説明して下さり、とても良い経験となりました。（２回生・大隅楓）

中町ゼミ：東京・埼玉旅行

私たちは、東京を中心にイスラムの文化と観光事業の調査のため、2023 年 9 月 3 日～ 5 日に東京都と埼玉県へ行きました。甲南東京キャンパスに集合後、昼食のトルコ料理で主にケバブ料理を食べました。新宿の東京観光センターでパンフレットを取得後、東京ジャーミーを見学。壮観な建物は特にドームの装飾がすごく、寛容なコミュニティとして多くの国籍のムスリムや女性も気軽に見学できる施設でした。新大久保ではコリアンタウンとイスラム横丁を訪れ、夕飯は韓国料理を食べました。二日目は、まず埼玉県蕨市に行き、クルド人問題などを調査する予定でしたが、移民・外国人関係は市役所も回答できないということで、情報を得られなかったことが心残りです。ケバブの昼食の後、南越谷モスクを訪ねました。パキスタン、バングラディッシュの方々が主に礼拝されるそうです。今まで訪れたモスクの中でもかなり大きい規模でした。そして武蔵野美術館でエジプト展を見学しました。内容は主にツタンカーメンの展示でした。ここで特に印象に残ったのは本を大量に並べたアートが壮大なことです。（３回生・相見亮吾）

歴文生による訪問記：台湾紀行

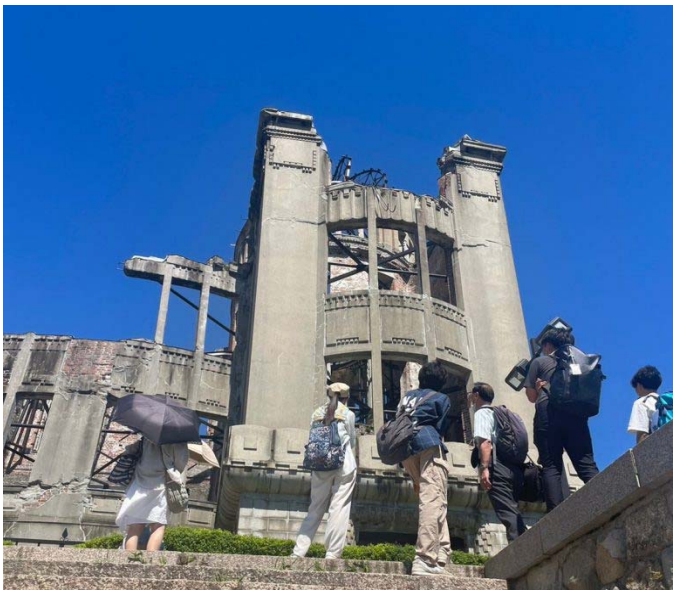
私たちは 2023 年 3 月と 8・9 月の一部、約 1 ヶ月間を台湾で過ごしました。個人研究で台湾の近現代史について調べているため、全島各地を現地調査に訪れました。以前台湾を訪問したのは 4 年前、それも台北を 2 週間程度であったので、今回の訪問は非常に新鮮かつ（良い意味で）衝撃の連続でした。邦人が海外渡航すると否応なく感じる「基本的」なカルチャーショックに加え、台湾が如何に多民族・多文化社会であるのかを五感で知ることになりました。例えば台湾南部の街・台南では、台湾語が飛び交う伝統的な市場や寺廟が活発に運営されているのを目にしたほか、台湾中部の奥地・霧社では原住民の方々が独自の言語・文化を維持している様子を窺い知ることができました。 これは、台湾が近世より内外の多様なルーツを持つ人々が行き交う「世界史」の舞台であり、そこに生きる人々が力強く生きてきた証である…と私は思います。紙幅の都合上これ以上語れませんが、この記事を読んで台湾に少しでも興味を持った方は、是非台湾旅行を予定に加えて頂けると幸いです。（3 回生・大槻耕央）

02　歴らぼ活動ほか

歴たび班：中之島香雪美術館

2023 年 4 月 22 日、歴史の旅企画班の第一回巡検として、大阪の中之島香雪美術館の「修理のあとにエトセトラ」展へ行きました。初めての試みでしたが、多くの新入生が参加してくれました！ 今回の展覧会は「文化財の修理」に焦点をあてた内容で、文化財を後世に守り伝えていくための取り組みを様々な展示品を通して観ることが出来ました。絹本着色の絵画の裏彩色や、一木造の仏像の修理など、その精巧な技術の数々から文化財修復の難しさと熱意を感じ取り、学ぶことの出来るとても興味深い展覧会でした。個人的に印象的だったのは木造薬師如来立像で、どこかエキゾチックな顔立ちや不規則に刻む衣文が魅力的。これほど見事な仏像ながら伝来が一切不明というのも面白いと感じました。（3 回生・山田伊吹）

近代資料班：呉・広島巡検



2023 年 7 月、近代資料班の初巡検として広島県呉市と広島市を訪問し、現地に残る近代史関係の史蹟を見学しました。初日の呉市では、呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）や旧呉鎮守府、入船山記念館などの旧日本海軍に関連する博物館・資料館を見学しました。翌日は朝から呉市・江田島にある旧海軍兵学校と教育参考館を見学しました。本館では対外戦争の歴史が当時の歴史観に基づいて概観・再現されており、過去の国民意識を推察するとともに、海上自衛隊所蔵の貴重な歴史資料を間近で見学できました。午後は江田島から直接広島市に行き、原爆資料館を見学しました。G7 サミットの舞台となったことも踏まえ、改めて「平和」の尊さを実感できました。今回の巡検では様々な資料館を見学しましたが、それぞれが同じ広島県でありながら、歴史的背景の違いからか異なる展示・解説がなされており、とても興味深かったです。(3 回生・大槻耕央)

歴たび班：京都御所と上賀茂神社

2023 年 5 月 28 日に行われた歴史の旅企画班の見学会で、京都御所と上賀茂神社を訪ねました。京都御所では、紫宸殿や装飾の施された門を見学し、その規模の大きさに感銘を受けました。また、幕末の重要な場所である堺町御門や蛤御門も訪れ、幕末の戦争で残った弾痕がある蛤御門から御所までの距離が意外に近いことを発見しました。特に建礼門の大きさと装飾は圧巻であり、京都御所の各門の特徴を比べることも楽しみました。上賀茂神社では特別参拝として、本殿や権殿を訪れました。上賀茂神社の正式名称は賀茂別雷神社といいますが、その賀茂別雷神社の由来である神話を描く直会殿の絵画や高倉殿の展示物を鑑賞し、神社の神話や貴重な要素を学びながら、より深い考察ができる経験でした。(1 回生・坂本朋磯)

歴かふぇ 15・大江篤先生

2023 年 7 月 3 日、編集部では、第 15 回・歴かふぇを開催しました。今回の講師は、民俗文化研究Ⅰ（前期火曜 1 限）を担当して頂いている大江篤先生（園田学園女子大学・教授）です。東アジア恠異学会の代表も務める大江先生は、「怪異学とは何か」というテーマでお話し頂きました。怪異を学問として捉え、それを通して当時の人々の考えや価値観を知るという体験は非常に新鮮でした。学生からも多くの質問が飛び交い、有意義な時間を過ごすことができました。（3 回・高岸敬太）

歴文的部活動の紹介 02：古美術研究会

古美術研究会（甲南大学・文化会）は、古代から近代において日本で制作された美術・工芸品を研究する部活動です。毎年異なった研究テーマを設定しているため、幅広い分野の古美術について知見を深めることができます。一年間の研究成果は、摂津祭（学園祭）でのパネル展示・部誌『古苑』を通じて報告しています。なお、2022 年度より月 1 回の見学会および夏期休業期間における合宿の実施を開始しました。2022 年度は研究テーマ「狩野派」に併せ、京都府の二条城・聚光院、愛知県の名古屋城・徳川美術館などを見学しました。（2 回生：大槻耕央）

歴文的部活動の紹介 03：人文地理学研究会

甲南大学の文化会にあたる「人文地理学研究会」では、地理情報をもとに地域の観光や成り立ちの調査を行っています。現在は 1 年生から 3 年生の部員で構成されており、標高をもとにした地形図の作成や、対象地域の産業から観光など様々な分野について部員それぞれが調べています。毎年の文化祭では地理模型の作成を行うなど、地理や観光について楽しみながら活動しており、地理や観光に興味のある方にはとてもおすすめの部活動です。昨年度は淡路島の模型を作成し、その中で特に南あわじ市の地理観光について調査しました。今年の文化祭でも地理模型を作成予定なので、ぜひ足を運んでみてください。（4 回生・前田彩花）

編集後記

お目通し下さり有難うございます。歴らぼ通信は今回で第 21 号を迎えました。今号は皆さんの協力もあり、非常に多くの記事を提供して頂きました。掲載仕切れなかった記事はウェブサイトに載せています。興味があれば是非ご覧ください。（高岸）／　忙しいけれど歴らぼの活動に関わるとほっとします。（鳴海）

編集：佐藤葵生（3 回生）・高岸敬太（同）・網干理子（2 回生）・高尾小雪（同）・脇坂柊吾（1 回生）・藤本茉由（同）・鳴海邦匡（教員）
発行：甲南大学文学部歴史文化学科　　発行日：2023 年 12 月 28 日